

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

10&11

OCTOBER / NOVEMBER
2009

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第77回定期演奏会 ……	1~2
茨城の名手・名歌手たち 第20回 ……	2
ちょっとお昼にクラシックEXTRA ② ……	3
SELF PORTRAIT	
市毛恵子、佐藤 篤、水戸パッハコレギウム ……	3~4
最近の公演から ……	5
インフォメーション ……	6



写真上:水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会
(2008年5月30日)から
写真下:ラデク・バボラーク

「指揮者なし」MCOの魅力がいっぱい! ホルンの天才バボラークの妙技も冴える!

● 10/10(土)、11(日) 水戸室内管弦楽団 第77回定期演奏会

小澤征爾音楽顧問指揮による第75回定期演奏会、準・メルクル指揮による第76回定期演奏会に続く10月の第77回定期演奏会は、「指揮者なし」のプログラムです。あらためてご紹介するまでもなく、「指揮者なし」のプログラムは、水戸室内管弦楽団(MCO)にとって創立以来、重要な柱の1つを担ってきました。

「指揮者なし」のプログラミング

昨年(2008年)6月、小澤征爾音楽顧問が腰椎椎間板ヘルニアのため、MCOがメンバーだけで第3回ヨーロッパ公演を敢行し、大成功を収めたことは、様々な媒体でお知らせしてきたとおりです。その経験を踏まえ、安芸晶子、田中直子、工藤重典ら曲目検討委員を中心に、MCOは「指揮者なし」のアンサンブルの魅力、今まで以上に強力に打ち出せるプログラムの検討に入りました。

昨年11月に行われたバロック音楽のみによる第74回定期演奏会は、その模範的な回答のひとつだったと言えるでしょう。17~18世紀当時は、専門の職業としての指揮者がまだ存在していなかった時代ですから、その時代の音楽の多くは「指揮者なし」で演奏するのが自然なスタイルです。ヴィヴァルディやバッハのさまざまな協奏曲や、ナタリー・シュトゥツマンを独唱に迎えたヴィヴァルディ〈スターバト・マーテル〉など、「指揮者なし」のMCOの美点が自然に発揮された名演が思い出されます。

今度の第77回定期演奏会は、その方向をさらに推し進めた、よりヴァリエティに富んだプログ

ラムが組まれました。指揮者の方には申し訳ありませんが、「これは指揮者がいないほうが楽しめるかも!」と思わせる曲目がズラリと並んでいます。今年没後200年を迎えた古典派の大家ハイドンから、チェコが生んだロマン派の巨匠ドヴォルザークまで、聴きどころ満載の5曲。それでは、詳しく見て行くことにしましょう。

「指揮者なし」の魅力が凝縮=ハイドン〈昼〉

まず最初に演奏されるのは、ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)の〈交響曲 第7番 八長調 Hob.I-7 “昼”〉。ハイドンの交響曲というと、どうしても後期作品に注目しがちですが、初期、中期の交響曲も、後期に負けず劣らず楽しい作品ぞろいです。MCOは、第31番〈ホルン信号〉を指揮者なしで(1993年11月、第15回定期演奏会)、第45番〈告別〉を指揮者なしで(1998年6月、第34回定期演奏会)、第60番〈うかつ者〉を小澤征爾音楽顧問の指揮で(2002年6月、第50回定期演奏会)演奏していますが、これだけ初期の作品を演奏するのは今回が初めてとなります。

〈第7番 “昼”〉は、ハイドンが40年以上にわたって仕えることになるエステルハーゼ侯爵家の副楽長に就任した年(1761年)に書かれた交響曲で、〈第6番 “朝”〉〈第8番 “夜”〉と合わせ、3曲セットになっています。

聴き始めると、「これが交響曲?」と違和感をおぼえる方もいらっしゃるかも知れません。たしかに、独奏ヴァイオリン、独奏チェロ、独奏コントラバス、それにフルート、オーボエ、ホルンなどが務め

る独奏楽器群がオーケストラとさかんにかけ合う様子は、コンチェルティーノとリピーエノの交替によるバロック時代の合奏協奏曲(コンチェルト・グロッソ)を彷彿とさせます。フランスの協奏交響曲(サンフォニー・コンセルタント)の影響もあるかも知れませんが、とにかく、この曲には、バロックから古典派へという時代・様式の移りかわりが、絶妙なタイミングで刻み込まれているのです。

ハイドンがエステルハーゼ侯爵家にやってきてまず驚いたのが、エステルハーゼが新設した宮廷楽団の水準の高さでした。団員たちの腕を存分に発揮させるために、独奏部の多い交響曲を作ったのではないとも言われています。

誇り高いソリストや室内楽奏者が集まっているMCOも、きっと天国にいるハイドンを満足させることでしょう。潮田益子(独奏ヴァイオリン)、原田禎夫(独奏チェロ)、池松 宏(独奏コントラバス)、工藤重典(フルート)、吉井瑞穂(オーボエ)、ラデク・バボラーク(ホルン)らによる名人芸の応酬が、今から目に浮かぶようです。

また、資料によると、当時はその習慣にしたがって、ハイドン自身が独奏ヴァイオリンを務めながら、オーケストラをリードしていたそうです。まさに、「指揮者なし」のMCOにぴったりの曲であると言えます。

ハイドンからロマン派へ

2曲目は、同じくハイドンの〈ホルン協奏曲 第2番 二長調 Hob.VIId-4〉。この作品の成立については分かっていないことが多く、近年は弟のミハ



辺保陽一
リコーダー



不二原輝子
フルート



野田秀一郎
トロンボーン



坂口大介
サクソ



Duo Reflet
2台ピアノ



西 晴美
メゾ・ソプラノ



山崎法子
ソプラノ



宇佐美悠里
ソプラノ

エル・ハイドンの作ではないかと疑われています。とにかく、この曲で注目すべきは、ラデク・パボラークのソロでしょう。小澤征爾音楽顧問が「まるでハーモニカのように軽々と」と評した、その柔らかな響きと並はずれたテクニックは、この協奏曲の魅力は何倍にも膨らませてくれるに違いありません。

3曲目は、フェリックス・メンデルスゾーン(1809～1847)の〈弦楽のための交響曲 第10番 口短調〉。メンデルスゾーンと言えば、その生誕200年を記念して、〈ピアノ協奏曲第1番〉と劇音楽〈夏の夜の夢〉を演奏した今年4月の第75回定期演奏会(指揮:小澤征爾、ピアノ:小菅 優 ほか)が思い出されますが、今度の第77回定期演奏会でもささやかな、しかし心のこもったオマージュを捧げたいと思います。第22回定期演奏会(1995年6月)以来、実に14年ぶりの再演となるこの曲、聴きどころはズバリMCOの弦楽器セクションの進化。第1ヴァイオリン:3、第2ヴァイオリン:3、第1ヴィオラ:2、第2ヴィオラ:2、チェロ:2、コントラバス:1という小編成の弦楽合奏による繊細な響きをお

楽しみください。

休憩をはさんで後半は、舞曲のリズムに乗って。まずは、フランツ・シューベルト(1797～1828)作曲、アントン・ウェーベルン(1883～1945)編曲による〈ドイツ舞曲〉。小澤征爾音楽顧問指揮による第37回定期演奏会(1999年4月)以来、10年ぶりの演奏となります。もともとはピアノのために書かれた6つのドイツ舞曲を、新ウィーン楽派のウェーベルンが編曲しているのですが、実に色彩豊かに各楽器に持ち場が割り振られています。自発性にとんだMCOのアンサンブルが聴きものです(クラリネットには元バンベルク交響楽団首席で、現在ハノーファー音楽大学教授のヨハネス・パイツが、ファゴットにはシュトゥットガルト放送交響楽団首席のハンノ・デネヴェークが参加)。

最後を締めくくるのは、チェコの作曲家アントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)の〈チェコ組曲 作品39〉。作曲家と同郷のラデク・パボラークの提案が採用されました。MCOは、ドヴォルザークの作品では、弦楽合奏のための〈セレナード 作品22〉、管楽合奏と低弦のための〈セレナード 作

品44〉、それに林光に編曲を委嘱した〈弦楽四重奏曲 第12番 “アメリカ”〉の3曲をこれまでに演奏していますが、この〈チェコ組曲〉は今回が初めての演奏となります。ポルカ、ソウセツカー、フリアントという緩急入りまじったチェコ(ボヘミア)の舞曲が次々に登場する、ドヴォルザークならではの楽しい作品です。このような民族的色彩が強い舞曲の演奏には、その時々感興やいわゆる“ノリ”といった要素も大切になります。自由に翼を広げたMCOの演奏家たちが、“我こそは”と披露するスタンドプレイの数々が心行くまで楽しめそうです。

「指揮者なし」のMCOの魅力がギュッと詰まった第77回定期演奏会、どうぞお楽しみに! 〈関根〉

茨城の音楽界を背負って立つ若き才能が続々と登場!

● 10/17(土) 茨城の名手・名歌手たち 第20回 司会:畑中良輔

今年6月7日に行われた「茨城の名手・名歌手たち 第20回」出演者オーディション(応募総数 35)で、見事に審査を通過した7名と1組の音楽家たちが、合格者による演奏会に登場します。今年はどうな「名手・名歌手たち」が誕生するのでしょうか。

演奏会の幕開けは、リコーダー辺保陽一さんの古雅な響きで。辺保さんはちょうど10年前、Ibory Tower's Trioの一員としてこの企画に出演しています。今度はソロで帰ってきてくれました。演奏する曲は、17世紀イギリスの作曲家マシュー・ロックの〈組曲 小短調〉。チェンバロが伴奏します。

2曲目は、フルートの不二原輝子さん。不二原さんも、この企画には第7回(ソロ)、第12回(フルート・デュオ)の2回出演しています。曲は、尾高尚忠〈フルート協奏曲〉。フルートの澄んだ音色を存分に味わえる曲です。

3曲目は、トロンボーン野田秀一郎さん。薬局で管理薬剤師として働かれている野田さんで

すが、トロンボーン腕前も一級品。曲は、ゴールドスタイン〈トロンボーンとピアノのための“対話”〉で、表情豊かなトロンボーン音色を期待できそうです。

4曲目は、サクソの坂口大介さん。オーディションでは、ベリオの難曲〈セクエンツァIXb〉を見事に演奏し、注目を集めました。演奏会では、ガラッと雰囲気を変えて、ロバ〈ハード〉を演奏。無伴奏サクソの熱い響きが会場を満すことでしょう。

休憩をはさんで5番目に登場するのは、2台ピアノの Duo Reflet (第1ピアノ:佐藤靖子さん、第2ピアノ:吉成純子さん)。繊細さと力強さをあわせ持つ、絶妙なピアノ・デュオを聴かせてくれそうです。曲は、尾高尚忠〈みだれ〉～2台のピアノのためのカプリッチョ～。

6番目、7番目は、メゾ・ソプラノの西晴美さん、ソプラノの山崎法子さん。ドイツ・リートを見事

に歌う「名歌手たち」が2人も誕生したのが、今回の声楽部門の際立つ特徴でした。西晴美さんは〈二人はさまよい歩いた〉〈永遠の愛〉ほかブラームスのリート集を、山崎法子さんは〈悲しみの聖母に祈るグレートヒェン〉〈少年とみつばち〉ほかヴォルフのリート集をそれぞれ聴かせてくれます。ドイツ・ロマン派の対照的ともいえる二人の作曲家のリートがまとめて聴ける貴重な機会です。

演奏会のトリを務めるのは、ソプラノの宇佐美悠里さん。今年はずらしく、オペラ・アリアを歌って審査を通過した人は1人だけでした。演奏会の最後を、ソプラノの華やかな歌声で締めくくっていただきます。曲は、グノーの〈春に〉、歌劇〈ファウスト〉から“トゥーレの王”～“宝石の歌”。

司会は、オーディション審査委員長の畑中良輔氏が務めます。新たな「名手・名歌手たち」の誕生をお楽しみに! 〈関根〉



TRM(左から:近藤 岳、山口綾規、勝山雅世)



市毛恵子

That's Rhythm ! That's Music !

● 10/26(月) ちょっとお昼にクラシックEXTRA② オルガニスト・グループ『TRM』の“踊るオルガン”!!

週末や夜のコンサートはなかなか足を運べない方にもクラシック音楽をお楽しみいただき、ぜひたくで優雅なお昼のひとつをコンサートホールでお過ごしいただく『ちょっとお昼にクラシック』シリーズ。クラシック音楽にはあまり馴染みの無い方々でも気軽にお楽しみいただける親しみやすいプログラムと破格の料金! 一方で、クラシック音楽を深く愛する方々にもご満足いただける第一級の演奏家たちの出演!—この両方を兼ね備えることで、大きな好評をいただいております。そして、「年1回だけでなく、もっとやってほしい」という多くの方のご要望にお答えし、誕生したのが『ちょっとお昼にクラシックEXTRA(エクストラ)』シリーズです。

今回は、オルガニスト・グループ『TRM』による演奏会をお届けします。メンバーは、フランスでフィリップ・ルフェーブルに師事、現在ミューザ川崎シンフォニーホールのオルガニストを務める近藤岳(こんどうたけし [T])。パイプオルガンばかりでなく、 Hammondオルガンの名手でもあり、クラシックからジャズ、ポピュラーまでジャンルの垣根を越えたレパートリーで、国内外で活動を行う山口綾規(やまぐちりょうき [R])。パーゼル・スコ

ラ・カントゥムに学び、昨年からリサイタル・シリーズを開催、現在東京芸術大学オルガン科教育助手でもある勝山雅世(かつやまさよ [M])の3人です。彼らは東京芸術大学の大学院在籍中からの仲間、揃いも揃って凄腕・凄足の持ち主なのです! ちなみに彼らは、水戸芸術館のブロンナード・コンサートにも学生時代から出演し続けてくれています。

当日は、それぞれのソロ、連弾に加え、1台のオルガンをTRM全員で同時に演奏する3人連弾が披露されます。気の合う、息の合う仲間だからこそ成し得る、6手6足による演奏です! 今回の演奏会では、色々な土地で生まれた舞曲を中心に、さまざまなリズムやテンポをもつエネルギッシュな作品の数々をご紹介します。『のだめカンタービレ』で一躍有名になった、そして去る7月の水戸室内管弦楽第76回定期演奏会(指揮: 準・メルクル)でも取り上げられた、ベートーヴェンの〈交響曲第7番〉のオルガン編曲版。2006-07シーズンにフィギュア・スケートの浅田真央がフリーの演技で使ったイタリアの作曲家モンティの〈チャルダッシュ〉。この音楽は、「酒場風」を意味するハンガリーの民俗舞曲です。そして、1942年スイス生まれのオ

ルガニスト・作曲家であるボヴェのスペイン・カタロニアの民謡をベースにした〈サラマンカ〉などが紹介されます。身体の中まで振動させる大オルガンの音響による、リズムの饗宴をどうぞご堪能ください。さらに今回は、出演者の華麗な手技や足技をライブで映し出すビデオ・カメラ&スクリーンを特設します。こちらもお楽しみに!

1ドリンク付きで1,200円!! 託児サービスもご用意しておりますので、小さなお子様がいる、なかなかコンサートに行けないというお母様もどうぞお越しください。さらに、館内レストラン「ヴェールブランシェ」のご協力で、チケットをお持ちの方は10月1日から10月31日まで、同レストランのランチもしくはディナーに10%の割引価格でご優待します。是非、ご利用ください。《中村》

※託児サービスをご希望の方は、10月12日(月)までに水戸芸術館音楽部門・担当: 中村宛てにお電話ください(TEL: 029-227-8118)。定員20名・料金500円。定員になり次第、締切らせていただきます。お申し込みはお早めどうぞ!!

SELF

水戸在住のピアニスト、市毛恵子が誘うピアノトリオの至福のひとつ時。

■ 11/1(日)
市毛恵子
ピアノ・リサイタル

リサイタルにピアノトリオを加えるようになって、早いもので17回を数えます。今回はピアノトリオの魅力をお伝えしたくて全曲トリオのコンサートを企画いたしました。

演奏会ではどのように自分の考えを表現し伝える事が出来るかに心をこめて、本番でお客様との一体感を感じられた時に楽しさと喜びが生まれます。トリオでは更に仲間との一体感も実感出来るので、曲作りの過程からまた違った楽しさがあります。ソロではすべてが自己の表現ですが、トリオでは相手がどのような意志表示をするか、お互いのかけひきがあり、そのスリリングな感覚にとっても惹かれています。

今回のプログラムは、各楽器の扱い方が時代と共に変化している事を実感して頂けると思っています。最初のモーツァルトはピアノ、ヴァイオリン、チェロの編成の三重奏曲を7曲残しています。〈K.502〉は協奏曲ふうな様相を持ち、かなり自由

な作風になっていて、その時代にはバス音の増強を務めることが多かったチェロが他楽器と対等に主題に参加しています。次のショパンはピアノ曲の優れた作曲家ですが、室内楽曲も数曲残しています。〈トリオ短調〉はピアノ書法の独特な色彩や多様性に加え、各楽器の特徴を生かして書かれています。全体にピアノが重要な位置を占めていますが、ショパンがチェロを特別好んでいた事もうかがえます。3曲目のブラームスは、最も広く知られいろいろ編曲もされている(ハンガリー舞曲)より第1番と第6番をピアノトリオ版で演奏いたします。ジプシー(ロマ)の気まぐれな性格や哀愁と情熱が見事に表現されています。最後のメンデルスゾーンは室内楽曲を20数曲作曲



佐藤 篤 photo:林喜代種



水戸バッハコレギウム

して、トリオは3曲あり、今回の(第1番)は生涯のうち最も充実した時期に書かれ、ロマン主義時代のロマンティックな魅力にあふれた一曲です。今年は生誕200年という事と、トリオを勉強するきっかけになった曲なので思い入れも格別深いものがあり選曲いたしました。

今回、相方を務めます二人とは、お互いの手の内を知り尽くしている仲?! ですが、毎回新しい発見もあり私の密かな楽しみの一つになっています。演奏会で、各楽器の融合された響きとともに互いのかけひきなどもお楽しみ頂ければ嬉しい限りです。混迷した世の中に身をおきストレスに

さらされる日々ですが、演奏会でピアノトリオの魅力を感じて頂いて心が少しでも癒されますように…。

市毛恵子

茨城大学教授で茨城演奏家連盟会長を務めるピアニスト 佐藤 篤。バロックから現代までを弾き終えて、今回はシューベルト、ショパン、ブラームス作品によるリサイタル。

■ 11/3(火) 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル

まず最初に私こと、2002年より全6回シリーズで企画いたしましたピアノリサイタル・シリーズ「同世代を生きた作曲家達」ですが、昨年～その6“深遠なる浪漫への果てしなき旅路”～の茨城公演(12月22日)、東京公演(12月27日)をもちましてシリーズすべての幕を恙なく閉じることが

出来ましたことを御報告申し上げます。

そもそもこのシリーズを企画するきっかけとなったものは、私が全くフリーのピアニストではなく、将来日本の義務教育における「音楽」の授業を担ってゆく学生を養成する立場にある者として、その時代その時代の表現様式を踏まえ、その作品が書かれた時代背景などを把握し、生涯を通じて演奏(研究)し続けて幅広いレパートリーを自ら開拓してゆかないと、学生に自信と責任をもって指導することが出来ないとの私の「教師観」「教師像」に由来するものであります。

そう言いながら慣性の法則に拠るか拠らないかは別としまして、私もいつの間にか茨城大学に35年間籍を置いております。まさにその職場は良くも悪くも朱に交われば赤くなり、類は友を呼ぶ人間社会でございます(教員、学生共)。しかしながら、今まで職場を投げ捨てずに良かったと思うことは、この春卒業した私の卒研ゼミ生が茨

城大学教育学部の歴史始まって以来、初めてストレートで東京藝術大学の大学院に進学できたこと、これまた初の国際コンクールでの入選者がたこと等々であります。今後もこのように教育学部であっても真剣に音楽に取り組もうとしている学生との出会いを大切に大学務めを全うし、県の音楽文化向上に尽くすつもりであります。

さて閑話休題、今回のリサイタルで取り上げたシューベルト、ショパン、ブラームスは共に音楽史上ロマン派の作曲家と分類されております。その3人の浪漫の在り方の違いを私がどう解釈するのか、しなければならぬのか、そして究極的にやがて山頂に沈み行く太陽の残照のごとく光り輝くこれらの名曲を私がどのように演奏したいのかを、聴衆の皆様感じていただけたらそれは無上の幸せと言うほかはございません。

佐藤 篤

創立25周年記念公演。
あらためてバッハを問う。

■ 11/8(日) 水戸バッハコレギウム 第20回定期演奏会

バッハの心にふれてみたい— そんな想いをいただいた、茨城大学で音楽を学ぶ学生たちの小さな集まりから、わたしたち水戸バッハコレギウムの歴史は始まりました。試行錯誤の演奏会を重ねるなか、バッハの音楽に関心を寄せる仲間も少しずつ増え、日本原子力研究所混声合唱団のみなさまと(ヨハネ受難曲)を演奏するまでになりましたが、その後さらに演奏技術を高め、バロック音楽の理解を深めたい、との団員の強い希望から、

1984年、ヴァイオリニストの蒲生克郷さんを常任指揮者にお迎えし、水戸バッハコレギウムが正式に発足します。以後、合奏と合唱が一体となり、バッハを中心とするバロック音楽を演奏する団体として活動を続けてきました。

いうまでもなく、アマチュアの音楽活動は地域社会をはじめ、多くの方々の有形無形の支援により成り立っています。とりわけ独奏・独唱者として演奏会に参加して下さった演奏家のみなさまには、演奏技術はもとより、その音楽への熱い想いから実に多くのことを教えていただきました。今回ご登場いただく、山崎法子さん(ソプラノ)、志田理早さん(アルト)、佐藤淳一さん(テノール)、鈴木優さん(バリトン)は、それぞれ歌曲や宗教音楽の分野ですぐれた実績をお持ちで、舞台で同じ時間を共有できることは、わたしたちにとって大きな喜びになることは間違いありません。指揮は、創立時から熱心に指導にあたられ、

近年水戸や日立でも積極的な指揮活動をされている蒲生克郷さん(東京藝術大学講師)と、同じく長い間合唱指導にあたられている佐藤希久雄さん(茨城キリスト教大学教授)にお願いしました。

今回の演奏会では、本団創立25周年を記念する意味も込めて、復活祭にちなむコラール、モテット第6番(主を誉めよ、すべての異邦人よ)、(管弦楽組曲第3番)、教会カンタータ第11番(神を誉めよ、その諸国にて(昇天日オラトリオ))と、すべてバッハによる、しかも祝祭的雰囲気にあふれる楽曲を演奏します。バッハへの共感、その時空を超えた峻厳な美へ連なろうとするささやかな意志に、わたしたちの音楽の始まりがありましたが、この演奏会が、同様の想いを介して、バッハを愛する方々との新しい出会いの機会になれば幸いです。

水戸バッハコレギウム 菅野弘久

最近の公演から

JUNE
JULY



1



2



3



4



5



6



7

吉野直子&クレメンス・ハーゲン デュオ・リサイタル(6月17日)

わが国が誇る国際的なハープ奏者の吉野直子と現代最高の弦楽四重奏団のひとつと評されるハーゲン弦楽四重奏団のチェロ奏者のクレメンス・ハーゲンによるデュオ・リサイタル。プログラムは、チェロとハープのオリジナル作品、チェロとピアノの作品、そしてそれぞれのソロ作品で構成された。ドビュッシー、グリムカ、シューベルト作品というロマン派の音楽に加えて、J.S.バッハの無伴奏チェロ作品、ユン・イサン、ルトスワフスキの現代作品が取り上げられた。ハープもチェロも、どちらかと言えば、声高にそれぞれの音楽を主張するタイプの楽器ではないのかもしれない。しかしこの2人の名演奏家の手にかかると、本当に多彩で、心の奥底にまで響き渡るような、豊潤な音楽が創り出されることになる。アンコールはフォーレの〈シシリエンヌ 作品78〉とサン＝サーンスの〈白鳥〉。《中村》

アンケートから ●ドビュッシーやユン・イサンの曲をチェロとハープの演奏で聴けるというのは、本当に素晴らしいと思いました。本格的な音楽を聴ける環境が、水戸にあると思いました。(文京区:E.Y.さん) ●聴く前は、チェロとのデュオということでハープの音量は大丈夫かな?なんて心配していましたが、響きが素晴らしい水戸芸術館のホールではまったく心配いらぬことでした。クレメンス・ハーゲンの音色を堪能できてよかった!そしてハープがこんなにすごい楽器とは!(M.A.さん) ●ハープとチェロの組み合わせがとてもで、且つ大変息があっていて良かった。久しぶりに流麗で美しい音楽を堪能しました。(那珂郡:M.S.さん)

水戸室内管弦楽団第76回定期演奏会 (7月4,5日)

準・メルクルが指揮を務めた第76回定期演奏会。共演4度目だけあり、和やかな雰囲気初日が始まる。いざ練習になると、メルクルの指揮とメンバーの奏でる音が機敏に反応しあう、非常に集中度の高いリハーサルとなった。プログラムはドビュッシー(カブレ編曲)〈こどもの領分〉、ハイドン〈ヴァイオリン協奏曲第1番〉(ヴァイオリン独奏:豊嶋泰嗣)、ベートーヴェン〈交響曲第7番〉。精彩に富んだアンサンブルから、情熱的かつ軽やかな第7番まで、準・メルクルとMCOは各作品の持ち味を存分に引き出した。アンコールは〈こどもの領分〉より「ゴリウオッグのケーキ・ウォーク」。また7月3日には茨城県武道館で、水戸市を中心とした小学5年生およそ3000名のために「子どものための音楽会」を、7月6日には栃木県足利市民会館で、記念すべき「第1回足利定期演奏会」を開催した。《高巢》

1~2. 吉野直子&クレメンス・ハーゲン デュオ・リサイタル
3~4. 水戸室内管弦楽団 第76回定期演奏会
5. 子どものための音楽会
6~7. 高橋悠治の肖像

アンケートから ●夏の蒸し暑い夜の一杯の清涼剤。最高の“音”で満喫させていただきました。(草加市:H.I.さん) ●すごいベト7でした!息をするのを忘れそうになりました…ああ来てよかった!(新潟市:T.K.さん) ●昨年の「田園」に続き、素晴らしい7番でした。このコンビで是非ベートーヴェンの9曲すべてを取り上げ、またCDかDVDにしてほしいです。(横浜市:M.S.さん) ●改めてMCOとはこういう音色だったのだと、驚きと嬉しさで一杯になりました。聞く側にも真剣さをせまるような素晴らしい演奏でした(無記名の方) ●まったく異なる個性をもつ作曲家の作品を見事に演奏しわけたMCOメンバーの腕に感動!そして、それを指揮で見事にまとめ上げた準・メルクル氏の名指揮者ぶりにさらに感動しました!(那珂市:Y.T.さん)

高橋悠治の肖像(7月18日)

水戸芸術館では、第二次世界大戦後に活動を行う作曲家たちの作品を特集する演奏会シリーズ(2004年にルチアーノ・ベリオ、07年にピエール・ブレーズを取り上げた)を開催、ご好評をいただいている。今回同シリーズの一環として、今日の水戸の作曲家の中でもとりわけ大きな役割を果たしている高橋悠治の創作の軌跡を辿る演奏会を、作曲家自身の企画・構成・出演により実施した。当方のリクエストに応じ、高橋氏は1960年代の作品(〈クロマモルフ2〉)から今日の作品(〈なびかひ〉)までをピックアップしてくれた。今回の公演で特徴的だったのが、その楽器編成だ。ピアノ(高橋悠治、及川夕美)、ヴァイオリン(漆原啓子)、うたと朗読(波多野睦美)、ギター(笹久保伸)、パイプオルガン(保田紀子)、尺八(志村禪保)というように、実に多様な楽器のための作品が並べられた。高橋悠治氏の創作は、西洋中心主義から脱し、たとえば、彷徨する魂の希望や慰め、死んでいった者たちへの悼みなど、音楽だからこそ為し得る人間の切実な営みへと向けられているのだとつくづく感じた。《中村》

アンケートから ●21世紀の音楽はどこへ向かっていくのか、考えずにはいられない一夜となりました。尺八の音色と波多野さんの深みのある声、とても素敵でした。(N.H.さん) ●この数年間の中でも、1番良かった公演かもしれないと思った!(つくば市:T.Y.さん) ●はじめて高橋さんの世界をのぞきました。〈さまよえる風の痛み〉の詩の朗読の美しいこと。心にしみ入りました。(東海村:Y.N.さん) ●高橋悠治さんという素晴らしい音楽家に出会うことができたことに深く感謝しています。ピアノの音がとても抽象的で、その何ともいえない間に、色々な思いが浮かんできました。(調布市:M.O.さん)

information

- チケットに関するお問い合わせ
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

チケット・インフォメーション (9月26日(土)発売分)

- ◎ クリスマス・プレゼント・コンサート 2009
12/23(水・祝)17:00開演
料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎水戸室内管弦楽団
第77回定期演奏会 ……10/10(土)中央×、左右・裏△
10/11(日)中央×、左右・裏△
- ◎茨城の名手・名歌手たち 第20回 ……10/17(土)自由席○
- ◎〈ちょっとお昼にクラシック EXTRA ②〉
オルガニスト・グループ「TRM」の“踊るオルガン” ……10/26(月)1F△
- ◎市毛恵子 ピアノ・リサイタル ……11/1(日)自由席○

※8/27(木)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターで
お得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。
公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な10・11月のスケジュール

コンサートホールATM

- 水戸芸術館開館20周年・水戸市市制施行120周年・水戸藩開藩400年記念事業
水戸室内管弦楽団 第77回定期演奏会
10/10(土)18:30開演、10/11(日)14:00開演
料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000
- 茨城の名手・名歌手たち 第20回
10/17(土)18:00開演 料金(全席自由):¥1,500
- 市毛恵子 ピアノ・リサイタル —ピアノトリオの至福— 11/1(日)14:30開演
料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,500
- 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル
11/3(火・祝)15:00開演 料金(全席自由):¥4,000
- 水戸バッハコレギウム 第20回定期演奏会
11/8(日)14:00開演 料金(全席自由):¥1,500
- 水戸芸術館開館20周年・水戸市市制施行120周年・水戸藩開藩400年記念事業
水戸室内管弦楽団 第78回定期演奏会
11/25(水)、11/26(木)、11/27(金) 各日18:30開演
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

エントランスホール

- 〈ちょっとお昼にクラシック EXTRA ②〉
オルガニスト・グループ「TRM」の“踊るオルガン” !!
10/26(月)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(ドリンク付)
- パイプオルガン プロムナード・コンサート
10月:4日(日)、18日(日) 11月:7日(土)、14日(土)
開演時間:12:00/13:30(2回公演) ※10/4(日)は12:00/13:00
入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

- 水戸芸術館開館20周年・水戸市市制施行120周年・水戸藩開藩400年記念事業
〈女優の語る日本文学〉松坂慶子の『天守物語』
10/3(土)16:00開演、10/4(日)14:00開演
料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥3,500
- 青木 FUKI ドラマティックコンサート 10/24(土)16:00開演
料金(全席指定):一般¥2,000 学生(大学生以下)¥1,000

- 萬狂言水戸公演2009+鑑賞講座「寝音曲」[禰宜山伏]
11/3(火・祝)16:00開演
料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000
- 「錦織」
11/15(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,000
※チケット発売日:10/18(日)

現代美術センター

- 現代美術も楽勝よ。
8/29(土)～10/12(月・祝) 9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日 ただし9/21、10/12(月・祝)は開館
料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
- Beuys in Japan: ボイスがいた8日間
10/31(土)～2010年1/24(日) 9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日、年末年始12/27(日)～2010年1/4(月)
11/23、2010年1/11(月・祝)は開館、翌11/24、2010年1/12(火)休館
料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

茨城の主な10・11月の演奏会 ※有料公演のみ

- ◆佐川文庫 TEL/029(309)5020
■川本嘉子 ヴィオラ・リサイタル 10/31(土)18:00開演
- ◆常陽藝文ホール TEL/029(231)6611
■楊興新 胡弓コンサート 11/14(土)17:00開演
※お問い合わせ:ヤン企画(株) 澤田 TEL/03(3618)5401
■小川 遥 ピアノリサイタル 11/22(日)11:00開演
※お問い合わせ:小川 TEL/0299(82)0612
- ◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166
■オバヴァ シレジア劇場 オペラ「夕鶴」
(会場:常陸大宮市文化センター) 10/27(火)19:00開演
■秋川雅史コンサートツアー～第4楽章～ 11/5(木)18:30開演
■プラハ国立歌劇場オペラ「アイダ」 11/9(月)18:30開演
■げんでんふれあいコンサート2009
ポール・モーリア メモリアル・コンサート 11/12(木)18:30開演
■キエフ・バレエ「くるみ割り人形」 11/25(水)18:30開演
- ◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521
■第35回東京藝術大学音楽学部同声会茨城支部演奏会
10/25(日)14:00開演
- ◆日立シビックセンター音楽ホール TEL/0294(24)7720
■山中千尋トリオ ジャズ・ライブ 11/27(金)18:30開演
- ◆日立市民会館 TEL/0294(22)6481
■鼓童 ONE EARTH TOUR 2009 10/7(水)18:30開演
■葉加瀬太郎コンサート2009 10/15(木)18:30開演
- ◆東海文化センター TEL/029(282)8511
■小山実稚恵 ピアノリサイタル 11/29(日)14:00開演
- ◆ギター文化会館 TEL/0299(46)2457
■マリア・エステル・グスマン ギターリサイタル 10/11(日)15:00開演
■福田進一ギターリサイタル 11/8(日)15:00開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5881
■ミリアム・コンツェン バイオリンリサイタル 10/17(土)15:00開演
■オバヴァ シレジア劇場 オペラ「夕鶴」 10/24(土)15:00開演
■綾戸智恵コンサート 10/30(金)19:00開演
■第25回つくば国際音楽祭
 ウェルナー・ヒンク&遠山慶子 11/9(月)19:00開演
 ウェルナー・ヒンク&マティアス・ヒンク 11/10(火)19:00開演
 ウェルナー・ヒンク&マティアス・ヒンク&東京ハルモニア室内オーケストラ
11/13(金)19:00開演
 ウィーン・フィルハーモニア・ピアノトリオ 11/19(木)19:00開演
 ドン・フリードマン&ナンシー・ハロウ～JAZZ～
11/23(月・祝)15:00開演
 ウェルナー・ヒンク&遠山慶子 11/29(日)15:00開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2009年9月発行 第144号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [lankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順): 佐川真美 高梨真樹 関根哲也 中村 晃

DTP/村田征司[株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…
MCO秋の収穫祭 その2 !!